

## 青山学院大学英米文学科

### I 部 英語による卒業論文の書き方

卒業論文は4年間に学んだ知識と研究方法の実践として書かれるものである。英米文学科の卒業論文としてふさわしい範囲でテーマを選び、そのテーマに関連する研究論文・資料等を検討したうえで書かれなければならない。卒業論文はあくまでも自分自身の主張や研究成果を発表するために書かれるもので、すでに発表された文献の引き写しや、その言い換え、もしくは継ぎ合わせに過ぎないものにならないよう十分に注意する必要がある。出典を明示せずに他人の学説や言い回しを借用し、自分のものであるかのように見せかけることは剽窃行為とみなされる。剽窃は重大な不正行為であり、評価「不可」を含む厳重な措置の対象となる。

論文作成はこの「英語による卒業論文の書き方」に従う必要があるが、ここでは基本的なことのみを示しているので、詳しくは『MLA 新英語論文の手引き 第6版』（北星堂書店）やその簡略版 *Joseph Trimmer, A Guide to MLA Documentation* (Houghton Mifflin)等を参照したり、指導教員に問い合わせること。

#### 進行スケジュール・モデル

	テーマの決定・第1次資料(研究素材)の入手と精読の開始
4月	履修登録(テーマと指導教員の決定)
5月	仮題目の決定・アウトラインの作成
6月	第2次資料(研究論文・研究書など)の収集と精読開始
8-9月	全体のアウトラインと章別のアウトライン作成
10月	題目とアウトライン(Projected Abstract)の提出
8-11月	卒業論文の執筆
12月	清書
1月	卒業論文を学務部教務課に提出

#### 必要な事務手続き

##### (1) 卒論題目と Projected Abstract の提出

提出期日と提出先 「講義案内」で日時を確認して、英米文学科合同研究室に提出。

英文でA4用紙1枚程度。30行x60ストローク(全角だと30字分)で頁設定。

卒論題目・氏名につづけて、アウトラインを書く。

##### (2) 卒論の提出

提出期限と提出先 「授業要覧」で日時を確認して、教務課に提出。

### A タイトル等の付け方 (見本参照)

- 1) タイトルには、作家名・作品名、論文のテーマ名を入れること。  
例 (文学系) Herman Melville as Literary Theorist  
(語学系) Language and Thought
- 2) 副タイトルを付けてもよい。  
例 Herman Melville as Literary Theorist: The Function of Narrator  
in *Moby-Dick*  
Language and Thought: Interdisciplinary Themes
- 3) 卒業論文であることの表示
- 4) 論文提出者の氏名と年月の表示
- 5) 字体は Times、Century 等、鮮明な字体とし、大きさは 14 フォント、ゴシック体(太字)とする。

### B 目次の付け方 (見本参照)

- 1) 中央に CONTENTS もしくは TABLE OF CONTENTS と大文字で記入。字の大きさは、14 フォント(太字)。
- 2) 1 行空けてから、Introduction、Chapter 1(あるいはただ、1 もしくは I)と書き、点線を付けて行右側に始まりのページを表記。章タイトルが 2 行になる場合、10 スペースをおいてから書くこと。字の大きさは 14 フォント(太字)。

### C 本文の用紙サイズ、行数と字数、余白、白紙ページ、製本

- 1) 用紙は A4 サイズとする。
- 2) 1 ページ 25 行、60 ストローク(全角だと 30 字分)とする。
- 3) 用紙の上下はそれぞれ 4 センチ程度の余白をおくこと。
- 4) 用紙の左右はそれぞれ 3 センチ程度の余白をおくこと。
- 5) 最終ページの後に、白紙を 1 枚はさむこと。
- 6) 論文は製本もしくは厚手の穴あきファイルに綴じて提出のこと。

### D 論文の枚数とページ数表示

- 1) Introduction から結論までの本文の長さは最低 30 枚を目安とする。
- 2) Notes と参考文献の部分は、本文の必要とされる分量に数えない。
- 3) ページ数の表示は右上肩に付けること。

### E 本文・Notes・参考文献の字体の大きさ

- 1) Times、Century 等、鮮明な字体とし、字の大きさは 12 フォントとする。

### F 書式 (章、Section の配置、余白、行の字下げ、句読点等の後のスペース)

- 1) 各章は、前の部分との間に余白があってもページを変えること。
- 2) 各章の表示の後、2 行空けてから本文を書き始めること。
- 3) 章の中に Section を置く場合、その表示の前を 1 行空けてから本文を書き始める

こと。

- 4) パラグラフの最初は、5 スペース空けてから書き始めること。
- 5) 句読点の後は、1 スペース空ける。ピリオドの後には、2 スペース空ける。ダッシュの前後は、スペースを空けないこと。なお、ダッシュは2本(-)付ける。

## G 作家名、作品名、雑誌掲載の論文等の表記方法

- 1) 原則として、論じる作家名は最初に言及するとき、フルネームで書き、続けて生没年を表示のこと。2回目以降は、姓だけでよい。

例 Herman Melville (1819-91)、Charlotte Perkins Gilman (1860-1935)  
Kazuo Ishiguro (1954-)

- 2) 論じる作品名は最初に言及するとき、作品の出版年を表示のこと。単行本となっていない場合等は、その発表年を表示のこと。

例 *The Mill on the Floss* (1860)、“A White Heron” (1886)

- 3) 論文中で言及する単行本となっている長編小説、戯曲、長編詩、研究書、雑誌・新聞等の場合、イタリック体、もしくは活字体で下線を付けること。
- 4) 論文中で言及する短編小説、戯曲集の中的一幕物、一篇の詩の場合、アメリカの作品はダブル・コーテーション・マークで表示、イギリスの作品はシングル・コーテーション・マークで表示すること。

例 単行本の場合 *The Waste Land*、もしくは The Waste Land  
短編の場合 アメリカ作品 “The Fall of the House of Usher”  
イギリス作品 ‘Ode to the West Wind’

- 5) 雑誌掲載もしくは論文集に収録の論文等の場合、すべてダブル・コーテーション・マークで表示する。

## H 引用・言及等の出典表示の仕方

- 1) 文学系の場合、研究対象のテキストが1冊であれば、そのテキストのページ数のみを括弧( )に入れて表示する。
- 2) いくつかの文献・テキストを利用する場合、それらの著者のラスト・ネームと該当するページ数を括弧( )に入れて表示する。

例

One Catholic novelist once told that “Despair is the price one pays for setting oneself an impossible aim” (Greene 50) in his *The Heart of the Matter*.

- 3) 同一著者の文献・テキストをいくつか利用する場合、そのタイトルの頭文字とページ数もしくはその発表年とページ数を括弧( )に入れて表示する。

注 語学系の場合、「I 引用の仕方」の例4の書き方が一般的である。

例1

One Catholic novelist once told that “Despair is the price one pays for setting oneself an impossible aim” (H50) in his *The Heart of the Matter*.

例2

According to Chomsky, minimalist studies assume the “clauses are cyclically

built up from verbal projections to temporal / inflectional projections, and higher functional projections”. (1972, 70)

4) 出典とページ数の表示は、引用・言及が本文中の場合はその末尾、文章の終わりであればピリオドの後にする。

## I 引用の仕方

- 1) 短い引用は引用符“ ”で、地の文に組み込むこと。目安は 3-4 行以内の長さのもの。詩・戯曲の場合、スラッシュ / で行が変わることを示す。
- 2) 長い引用の場合、行始めを 10 スペース空ける。引用がパラグラフ冒頭からの場合は、さらに 5 スペース空けること。どちらの場合も、引用符は付けない。
- 3) すべての引用の後には、出典・ページ数、行数、幕・場を表示すること。
- 4) 引用文の一部を省略する場合はピリオドを 3 個付け、続く文章が別のセンテンスの場合は、ピリオドを 4 個付ける。

例 1 詩・戯曲(短い引用) \*イギリスの作品なので引用符はシングル

When Juliet leaves, she says that ‘Good night, good night! Parting is such sweet sorrow, / That I shall say good night till it be morrow’. (II: ii,20-21)

例 2 詩・戯曲(長い引用)

In “Hunting Pheasants in a Cornfield”, Robert Bly expressed his strange experience as follows:

What is so strange about a tree alone in an open field?

It is a willow tree. I walk around and around it.

The body is strangely torn, and cannot leave it.

At last I sit down beneath it. (1-4)

例 3 短い引用 (文学系)

One Catholic novelist once told that “Despair is the price one pays for setting oneself an impossible aim. It is, one is told, the unforgivable sin, but it is a sin the corrupt or evil man never practises”(Greene 50) in his *The Heart of the Matter*.

例 4 短い引用 (語学系)

According to Chomsky (1972), minimalist studies assume that “clauses are cyclically built up from verbal projections to temporal/inflectional projections, and higher functional projections”. (70)

注 Chomsky (1972)は、Chomsky の 1972 年発表の論文もしくは研究書を意味し、(70)はその 70 ページを意味する。

例 5 長い引用 (引用個所がパラグラフ内部で、中略のある場合)

As Margery Fisher observes:

Stevenson’s romantic adventures were put in their place by a reviewer in the London *Daily Chronicle* who remarked that “great literature cannot be composed from narratives of perilous adventures”.<sup>1</sup> In the increasing number of critical surveys of the

English novel...Conrad is the sole writer ever to be included in the safe, accepted progression from Fielding to Henry James and beyond who could, to some degree, be considered to write of adventure in the traditional sense. (Fisher 30)

But there was a gradual move away from heavy moralizing, and some notable individualistic sparks, such as Edward Lear's *A Book of Nonsense*, John Ruskin's *The King of the Golden River*.

注 Stevenson's... で始まる引用は Fisher の論文もしくは本の 30 ページを意味し、引用の 4 行目の右肩に付けられた小さい数字の 1 は、Notes の通し番号の意味。

例 6 長い引用 (引用個所がパラグラフ冒頭の場合、さらに 5 スペース空ける)

As Margery Fisher observes:

Stevenson's romantic adventures were put in their place by a reviewer in the London *Daily Chronicle* who remarked that "great literature cannot be composed from narratives of perilous adventures". In the increasing number of critical surveys of the English novel...Conrad is the sole writer ever to be included in the safe, accepted progression from Fielding to Henry James and beyond who could, to some degree, be considered to write of adventure in the traditional sense. (Fisher 30)

But there was a gradual move away from heavy moralizing, and some notable individualistic sparks, such as Edward Lear's *A Book of Nonsense*, John Ruskin's *The King of the Golden River*.

#### J その他の引用・言及の出典表示

- 1) ある文献を自分でパラフレイズしたり要約したりして利用する場合、必ずその出典を明らかにすること。
- 2) インターネット等で文献を利用した場合、その出典を示すこと。

#### K Notes の付け方

- 1) Notes は本文では言い尽くせないコメント、説明、情報を提供する場合、文章等の形で記述する。
- 2) 本文の該当個所の右上に Notes の通しナンバーを付ける。「I 引用の仕方」の例 5 を参照。
- 3) すべての Notes は巻末にまとめる。

#### L 参考文献の付け方 (見本参照)

- 1) 参考文献でリストアップする著作等は、本文と Notes で引用・言及したもののみとする。
- 2) 文学系は、用紙中央に Works Cited と表示すること。語学系は、用紙中央に

References と表示すること。

- 3) 著者のラスト・ネームのアルファベット順に配列する。
- 4) 姓、名、書名、出版地、出版社、出版年の順に書き、最後にピリオドを付ける。  
 なお、語学系では、姓、名(イニシャル)、出版年、書名、出版地、出版社の順に書き、最後にピリオドを付ける。数行にわたる場合、2行目からは5スペースあける。  
 例 文学系 Hunt, Peter. *Theory and Practice*. Oxford: Oxford UP, 1999.  
 注 UPの個所は、University Pressと書いても、このように省略して書いてもよい。  
 例 語学系 Hunt, T. (1993). *English Grammar*. New York: Arnold Press.
- 5) 雑誌論文の場合、姓、名、論文名、雑誌名、巻数および号数、ページ数を付ける。  
 例 文学系 Gerber, Frederick. "Pastoral Spaces." *Texas Studies in Literature and Language* 30.2 (1980): 431-60.  
 例 語学系 Haiman, J. (1980). "The Iconicity of Grammar: Isomorphism and Motivation." *Language* 56, 516-40.
- 6) 同じ著者のものが複数ある場合、姓・名のところにハイフンを3個とピリオドを付け、タイトルのアルファベット順に配列する。
- 7) 複数の著者・執筆者・編集者の場合、最初の1人はラスト・ネーム、ファースト・ネームの順とし、2人目からはファースト・ネーム、ラスト・ネームの順とする。  
 例 Anderson, Lars and Peter Trudgill. *Bad Language*. Oxford: Basil Blackwell, 1990.
- 8) 日本語の文献の場合、原題をローマ字で書いた後、[ ]の中にその英語タイトルを付ける。  
 例 Shimada, Masahiko. *Suisei no jyunin* [*Inhabitants on the Comet*] Tokyo: Shinchosha, 2000.

(卒業論文の表紙)

**Herman Melville as Literary Theorist:  
The Function of Narrator in *Moby-Dick***

---

**A Thesis**

**Presented to**

**The Faculty of the Department of English**

**Aoyama Gakuin University**

---

**In Partial Fulfillment**

**of the Requirements for the Degree**

**Bachelor of Arts**

---

**Taro Aoyama**

**January 2011**

(卒業論文の目次)

## CONTENTS

Introduction .....	1
Chapter 1 Sources of <i>Moby-Dick</i> .....	3
Chapter 2 Satire in <i>Moby-Dick</i> .....	10
Chapter 3 Symbolism in <i>Moby-Dick</i> .....	17
Chapter 4 The Narrator as Observer .....	24
Chapter 5 <i>Moby-Dick</i> as a Work of Art .....	30
Conclusion .....	36
Notes .....	41
Works Cited .....	43

注 (最後の Works Cited は語学系の場合、References)



(文学系の参考文献)

#### Works Cited

- Abbey, Edward. *Abbey's Road: Take the Other*. New York: E. P. Dutton, 1979.  
 ---. *Desert Solitaire: A Season in the Wilderness*. New York: Simon Schuster, 1968.
- Austin, Mary. *The Land of Little Rain*. 1903. Albuquerque: University of New Mexico Press, 1974.
- Berry, Wendell. "A Few Words in Favor of Edward Abbey." *Resist Much, Obey Little: Some Notes on Edward Abbey*. Ed. James Hepworth and Gregory McNamee. Salt Lake City: Dream Garden Press, 1985. 9-19.
- Buell, Lawrence. "The Thoreauvian Pilgrimage: The Structure of an American Cult." *American Literature* 61.2 (May 1989): 175-99.
- Lyon, Thomas J., ed. *This Incomperable Land: A Book of American Nature Writing*. Boston: Houghton Mifflin, 1989.
- Marx, Leo. *The Machine in the Garden: Technology and the Pastoral Idea in America*. New York: Oxford UP, 1964.

(語学系の参考文献)

#### References

- Chomsky, N. (1995). *The Minimalist Program*. Cambridge: MIT Press.
- . (1998). *Language and Problems of Knowledge*. Cambridge: MIT Press.
- Fodor, J. A. (1975). *The Language of Thought*. Cambridge: Harvard UP.
- Jenkins, L. (2000). *Biolinguistics: Exploring the Biology of Language*. Cambridge: Cambridge UP.
- Newmeyer, F. J. (1992). "Iconicity and Generative Grammar." *Language* 68: 756-96.
- Pinker, S. (1994). *The Language Instinct: How the Mind Creates Language*. New York: Harper Perennial.
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
-